

令和5年度 第3回静岡市在宅医療・介護連携協議会

- 1 日 時 令和6年1月17日(水) 19時15分～20時15分
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 新館9階 特別会議室
- 3 出席者 (出席) 岡 会長、岩上委員、金原委員、窪野委員、近藤委員、  
坪井委員、中村(敬)委員、福地委員、山田委員、  
臨時委員：平野委員  
(オンライン) 稲垣委員、瀧委員、中村(美)委員、東野委員、吉永委員  
(欠席) 河西委員
- 4 傍聴人 0人
- 5 次 第 (1) 開会  
(2) 挨拶  
(3) 議事  
①報告事項  
エンディングノート(案)について  
(4) 閉会
- 6 会議内容  
(1) 開会宣言及び会議成立の報告  
(2) 挨拶  
(3) 議事

事務局

エンディングノート(案)について(資料1)の説明

岡 会長

エンディングノート作成部会の医療・介護の項目チームリーダー平野委員から、エンディングノートに関して、説明を願いたい。

平野委員

表題からだが、「エンディングノート」は皆さんに周知されているので、余計な名前ではなく、この「エンディングノート」にした。その代わりに、重くならないよう「これからの人

生を豊かにしていくために」という副題をつけた。2枚目、終活とは何かということを想像できない方も多くいると思うので、それを文章にし、枠囲みの一番左に「葬儀の事前準備、お墓のこと、遺言のこと」、真ん中は、「人生会議（ACP）、医療介護」のを中心に話し合うこととか、右側の「趣味・旅行、その人の人生史、あと死生観」、そういうことを含めて、まとめて全部「終活」という形でみんな考えているのではないかということで、そのような文章を入れた。

4 ページは、薬剤師の河西委員や他の委員より話があり、手で書くと間違いやすいので、お薬手帳のコピーを貼り付けるとかシールでもいいが、やりやすいように大きな形で間違いがないようにということをポイントに、フリーのページにしている。薬以外のところで市販薬やサプリメントを飲んでいる方もいるので、書くことができる場所を設けた。5 ページは、「自分史」として、自分やこれまでの人生の振り返りとして、いくつから、どの年から書くかということについては、その人の人生、良かったこと、辛かったこと、悲しかったこといろんなことがあるであろうから、1人で書く人もいるかもしれないし、友人と書いたり、親子で相談しながら書く方もいるかもしれないが、自由に書けるように、私の年表という形にした。家系図は、書ける方は書いてもらえればいい。7 ページの「これまで大切にしてきたこと」と、「これからの人生を豊かにするために大切にしたいこと」について、重なることが多いかもしれないが、今現在の自分の立ち位置から振り返って過去のことを思い返しながら、今から未来に向かってというように、その立ち位置について欄を分けた。内容が一緒になることがあっても当然かと思う。8 ページの「いざというときの医療・介護の希望」については、1人ではなかなか書けなくて、かかりつけ医がいたり主治医がいる場合には、相談をしながら書くという形になると思う。9 ページの下段の「もしものときの医療・介護の希望について、あなたの思いを託せる人は誰でしょうか」について、たくさん書くのも大変だろうということで、優先順位をつけ3名ぐらい思い当たる方を、9 ページと、一番最後の緊急連絡先（23 ページ）にして、重なってくると思うが、裏表紙からめくったときにすぐに見やすいようにという形で同じような内容の部分を作っている。10 ページは、厚生労働省の人生会議のイメージ図だが、我々の専門職では、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）というが、このことについて一般の方にもわかってもらえるような説明箇所を入れている。17 ページの「お墓の希望」、18 ページの「遺言・相続について」については、弁護士の委員に何度かに渡り検討を重ね、「遺言について」というところ、何種類か遺言書があるが複雑になるので、「自筆証書遺言」と「公正証書遺言」というものの2種類の説明をここに入れた。20 ページの「終活」をスムーズに進めるために」とについては、財産管理を誰にということが決まっていなければこれをきっかけに決めてもらい、協議会の中でも誰に相談したらいいのかということで、まず相談先として、21 ページは法的なものではないが、介護のこと、医療のこと全般も含めて、何が困っているかということ地域包括支援センターの連絡先を書いて相談しやすいように一覧として出した。また、22 ページからは、行政の相談窓口、他に各種の行政書士、司法書士、弁護士、公正証書を書いてもらえる

ところ、それぞれ相談窓口の連絡先を記した。最後 23 ページは緊急連絡先一覧を設けた。各委員の専門職の意見と市民委員の金原委員の非常に忌憚のない意見、素朴な意見を大いに感じながら、実際、何が足りないのか必要なのかと考え、作ったものである。

岡 会長

何か質問、意見はあるか。

福地委員

先ほどのサポートファイルとの話の関係で、これはサポートファイルに書き加えていくことができ、切り離しができるのと同じような形でエンディングノートを作る説明だったが、具体的には書き加えるときには、例えば、この一番最初のエンディングノートの記入開始日は、これも書き換えていくのか。

事務局

内容を全て書き換える場合は、新しい冊子を取り寄せてもらいたい。

福地委員

そうすると、具体的に書き換えていくというのは、例えば自分の基本情報も書き換えることはあると思う。これは一部の部分だけを、持ってきてファイルに入れる形なのか。

事務局

その通り。

福地委員

それでは、2 ページ以降にも、記入日を入れた方がいいのではないかと思います。3 ページ、4 ページ全ての記入日を、1 ページの記入日にするのか。

1 ページのところは同じだが 2 ページを書き換えたいという場合もあると思う。2 ページは書き換えなくていいが、3 ページは変えたいというときがあると思うので、その記入日は全て上に載っていた方がいいのではないかと。

それと「借入金・ローン」のところの借入金額などは、これは大丈夫なのか。金額を聞いて書くのか、あと、この「動産・不動産」のところは、金融機関名と支店名だけで額は書かないことでよろしいか。あと、「大切なもの」のところも、どこまで書いていいのか本人がわからなくなったときに、少しサポートする文章を入れてもいいのではないかと思います。

事務局

まず 1 点目について、全ページを片面刷りということも検討したが、手元に取ったとき、

あまりにも厚いと取り組む気がなくなってしまうことが懸念されたため、両面刷りとした。意見のとおり、全ページに記入日を入れる。2点目について、借入金額や額について委員から特に異議はなかった。「大切なもの」については注意書きを入れる。

平野委員

記入日だが、あくまでも自分が記入するところだけを、「記入日」と入れるのが、よいかと思う。

吉永委員

最初のところに「書けるところから書いてみましょう」ということが書いてあり、それは非常によいと思うが、“全部書かなくてもいいよ”というようなことが、あった方が良く思う。これだけは、しっかり全部を書かなきゃいけないというようなことを考える方も中にはいると思う。特に、財産のことなどに関して、難しいところで全然書かなくなったら、意味がなくなっても困るが、“無理に埋めようとしなくてもいいよ”というような、ニュアンスの部分もあればいいかと思う。

事務局

書き方のポイントの2点目として「書けるところから書いてみましょう」の中に、「一度に全部書かなくてもかまいません」と案内している。

福地委員

みんなに知っておいてもらいたい情報と、自分の整理のための情報と、一部の人だけに知っておいてもらいたい情報とがあると思う。それらが同じページに入っていると、例えば自分史は、これは誰が知ってというより自己満足的なところもあるのかもしれない、市販薬や薬の情報とか、最後にどうしてほしいとか、これはみんなに知っておいてもらわないと困る情報だと思うし、あと財産のことに関しては、ある程度この電気とかガスとかは残された人がいて整理しなきてはいけないと時のための必要な情報だが、預貯金などは、自分の整理もしくは本当にこの人だけには伝えておきたいという情報だと思う。不動産も同じで、大切なものもそうだと思う。そういったところで分けてページを書き換えた方がいいのではないかな。葬儀の希望は、みんなに知っておいてもらいたい情報だと思うが、保険とか年金は一部の人であろうし、この辺のところをカテゴリーを見直して、ページを書き換えてもいいのではないかと思う。

平野委員

今、福地委員が言ったように、どこにどの順番でレイアウトをしようかというのが、部会でもかなり悩んだ。順番を、吉永委員からもあったように、書けるところからというところ

で、全体の流れとして自分の人生についてというのは別に知ってもらわなくてもいいという人は当然いるわけだし、むしろ預貯金のところは、逆に知って欲しくないというところもたくさんあるでしょうということで、書けるところを今書いてもいいかなとか、書いておきたいところを書けるような意味合いの文章を冒頭に入れてある。レイアウトは各委員と話し合い、これでどうかという話になった気はするが、いかがか。

#### 金原委員

現在、多くのエンディングノートが発行されている。内容が盛りだくさんなものの中にはある。エンディングノートに記入する際、すぐに記入できるものとできないものがある。福地委員がおっしゃるように義務的に書かなくてはならないと考える方もいると思う。利用する方が理解して納得のできるような説明を書き加えてくれればと思う。

#### 平野委員

この不動産・不動産とか、エンディングノートの中で考えていくことも大事という項目として入れて、そこは別に書きたくないでも、考えなくてはいけないというふうに、この文章を見ることによって気づかせてくれるということではあるのではないかと思う。先ほどから指摘があった項目については弁護士の委員にも何度か聞いて、このぐらいまでは入れてもいいが、ただ番号とか額を入れて悪用されないようにということも含めて注意喚起を三角印で入れるようにしたというのが、正直な話。

#### 福地委員

具体的に自分史のところに、「もしものときの医療の希望・介護の希望」っていうところが、入ればよいかと思う。そのあとに、この「自分史」が来ると、ちょうど一つにまとまるような気がする、やはり「もしもの時の医療の希望」とか、「介護の希望」これは医療職も、関与しておきたいものであると同時に、本人並びに家族も知っておく内容で、その前の部分もそれに関連した基本的な情報なので、これは誰もがが必要な情報なのだろうと思うけども、次の「自分史」とか「これまで大切にしてきたこと」とかは、医療介護の方もそういった背景があるといざというときには必要なのかもしれないので、次の段階のところに移したらどうか。「資産」のところ、この「各種契約」のところ、家族の誰もが必要だと思うが、「金融機関」のところ「不動産」のところとか「大切なもの」あるいは「借金・ローン」とか言うところの保険年金は、次の一部の人間とか家族的には一番伝えておきたいというようなところで取り外しができるようにしておくといい。「葬儀の希望」とか、わかる希望は一つではないと思うので、そこの部分だけを入れ替えたらいいかと思う。取り外しができて、書いて、ここには載せないで、その人にその1枚だけを渡しておくというようなレイアウトにすると、非常にいいのではないかと思う。

#### 平野委員

先ほどの事務局からのサポートファイルについて、これに2穴で止めるのではなく、ファイルかこよりで閉じれるようなイメージでよろしいか。そのところをどういうふうにレイアウトを配置していくのか。

#### 事務局

福地委員に指摘をもらった「自分史」のところだが、最初は福地委員が言った通り、この「医療の情報」からそのまま「もしものときの医療の希望」という順番であったが、各委員から、自分のことから医療のことまで一気に進んでしまうと、気持ちがついていけず取り組みが進まない方もいるだろうという意見があったため、間に自分史」を入れ、自分のことを振り返り、いろんな気持ちを整理してから“もしものとき”という順番となった。このような経緯から、まずは気持ちよくエンディングノートに取り組んでもらうことに重きを置くため、今の順番としている。

#### 窪野委員

いろんな考え方があると思うので、あれもこれも山盛りにしてしまうと、逆に使いにくいと思う。本人が書きやすいものが編集方針の主なものだと思っている。例えば、資産のことが書いてあると、本人ではなくて他人が使うことが目的のような感じにどうしてもなってしまうかもしれないが、本人の書きやすさ第一ということでまとまっていればよいのではないかと思う。

#### 岡 会長

11 ページの「大切な人へのメッセージ」で、次が「不動産」になっているところから、少しここで章が変わるような気がする。「年金」までいくと、16 ページが「葬儀」、個人の希望を「大切な人へのメッセージ」の11 ページの次くらいが「葬儀の希望」になると、その後は、「不動産」とか、「遺言、相続」のところが繋がっていくような気はしたのだが、そうすると1枚を「葬儀の希望」、「お墓の希望」を前に移動することで少し整理できるかもしれないが、いかがか。

#### 平野委員

岡会長からの話を聞いて私も賛成。これまでずっと話し合っていたが、今気づいた。レイアウトは各委員で非常に悩んだ。ただやはり葬儀のことはその不動産の借入云々の前に、16 ページ・17 ページに入っているところを、今の11 ページの後に入れ込むのは賛成。

#### 金原委員

「資産」とか「財産」などはエンディングノートに入れなくてはいけないのか。抜くこと

でおかしいものになるのか。施設の方々にも利用者に話を聞きながら記入する時は、これは書けない。利用者はわからないと思う。

福地委員

1枚で取り外しができるので、書かなくてもよい。今、大体相続税を払う人は10人に1人なので、自分でまとめておきたいという方にとっては、非常にいいレイアウトではないかと思った。ただそれを残しておかなくてはならない。1枚取って誰かに渡せるようなレイアウトにしておくといいと思う。

平野委員

やはり葬儀のところは先の方がよいかと思う。坪井委員はいかがか。

坪井委員

会議ではそうは思わなかった。今、意見を聞き、なるほどと思ったので「大切な人へのメッセージ」の後に、「葬儀」でいいと思う。「動産」や「不動産」は書きたくなければ書かないし、書いても他の人に見せたくなければ外して例えば娘に渡しておくとかそういうこともあっていいかと思う。

福地委員

ここの「動産・不動産、大切なもの」とか「借金・ローン」は、“このページを切り離してお渡しいただくことも可能です”みたいなことを一言書いておけばよいのではないかと思う。

近藤委員

「葬儀」に関しては私も先の方が良いと思う。書類1枚2枚書くのが大変な方が多いので、ここまで内容を絞って、本当によくここまでまとまったなというのが実感。福地委員が言うように取り外しができるのであれば、見せたくない部分は本当に見せたい方に渡しておくというのもすごくいいと思う。

岡 会長

他に何か意見・質問等があれば、お願いしたい。

坪井委員

切り離したときに、ページ数が抜けていると、本体を出された人はなぜこのページは無いのかなどと思わないか。

## 窪野委員

おそらく、データでも公開されるということは、見ようと思えば、全体がどんな構成なのかと、みんなわかると思う。抜いてある理由も、渡された人が考えるのではないか。調べようと思えばいろいろ調べられるし、調べない方は気にしないでしょうし、あんまり気を遣い過ぎなくてもいいと思う。そもそも書いても書かなくてもいいという前提で、まず何か残しましょうというスタンスで、導入することを考えれば、書いてあったり書いてなかったり、そのページがあったりなかったりっていう運用がそれぞれで出てくるのではないですかというぐらいの感じでどうか。そんなにこだわらなくてもいいような気がする。

## 平野委員

元々の部会でも、先ほどの近藤委員にもあったが、あまり山盛りにしてもどうかということもあり、でも大事なことを気づく文言も、「動産・不動産」のところも入れておこうということで、委員の弁護士より、その法的な根拠はここにはないということがポイントでわかりやすく入れてあるから、今の窪野委員の意見を尊重できると思う。

あと、先ほど説明がなかったが、デザインや色合いについて、事務局から説明をお願いしたい。

## 事務局

まず表紙のイラストについては、印刷会社にイラストを描き下ろしてもらう。イメージは、委員から意見をもらっており、メッセージ性が強いものは避け、空や雲、険しくない山を望むような雰囲気想定している。インデックスについては、静岡市がんガイドブックのように、7色、暖色から寒色に項目ごとに色を使い分ける。本文には3点ほどイラスト挿入予定。

## 平野委員

最後の部会で話に出たが、今回このような形でとりあえずたたき台を作ったが、アンケートの結果や、市民、専門職からいろいろな意見が出てくると思う。来年度以降、それらの意見を汲み取った上で、ブラッシュアップをかける作業も当然あるということで、そこも承知いただきたい。

## 金原委員

この配布先は施設とかそういう所でよいか。個人の思いや希望などいろんなものを書く欄があるが、施設の方と一緒に書く場合もあると思うが書かれたものは、どちらに行くのか、家族の方に行くのか。それとも、施設の方が預かってくれるのか、そうすると、もし預かってくれるとその人の希望、書いたものについて何かしてくれるのか。



平野委員

このエンディングノートは、書いてもらうことから始まって自分の整理をすることが大前提。運用の仕方は、各個人、プロフェッショナル集団でもいいですけど、それは自由でいいと思う。

金原委員

家族が施設に入っている場合、判断はどうしたらよいか。

平野委員

もし施設に預けたいとか見てほしいと言って、誰でもいいと思うし、本人が判断することであろう。あくまでも書くのは、自分で書くが、書ききれないときに家族と一緒に書くということでもいいかもしれない。運用の仕方はおまかせでいいと思う。

金原委員

わかりました。

岡 会長

よくこういう事態に遭遇する職種の方もいるがいかがか。中村委員いかがか。

中村（敬）委員

金原委員の話の中で、施設でどのように使うのかという話があったが、既にこういったものをオリジナルで使っている施設もあるので、これが新しく出てどのように使うかなどは任せてしまえばいいと思う。また、比べてみて、こちらの方がいいと思って使ってくだされば、尚いいと思う。あと、病院で仕事をしていると、こういった場面によく出会うが、持ってきてくれる人が増えたらいいなと思う。自分の中では、これを配り始めたところで、病院でどう周知しようか既に考えている。

窪野委員

おそらく介護の現場では、後半部分はそれほど使わないと思う。今の冊子では、9ページのあたり、どのような薬を飲んでいるか、どのようなサービスを使い、ケアマネさんは誰かなどというところが教えてもらいたいところだと思う。サービス事業所等でもそのような必要な情報を知るためのものは準備していると思うので、今までと大きくは変わらないが、エンディングノートが新しくできたので、こういったことを皆さん考えてみたらいかがでしょうかということ、いろいろな方たちに伝えていくといった部分が、我々のまず取り組むところであろう。記入してもらったものに関しては自身がどう使うかは書いた方に判断してもらえばいい。ただ、判断を家族に任せたい、この方に任せたいという欄があったが、

任せる相手にだけは伝えておいてほしいと書いてあっても、その相手方に伝わってないと、そこがうまくいかなくて、誰に判断してもらえばいいかというのは、現場では起こり得ることなので、この方にお願ひしますと思っていることは、伝えてあげてもらいたい。

#### 福地委員

この配布先は、関係機関、関係団体、協議会ということだが、その医療機関と介護施設から、患者とか、業者に渡すということを想定しているか。働く世代には、これは届かないのか。

#### 事務局

静岡市のホームページに掲載する。

#### 福地委員

ウェブサイトからプリントアウトできるということなので、ぜひ周知してほしい。働く世代にも、突然、自分がいなくなったときのことを考えて書いておこうという人がいると思う。そういう方にも使えるような周知をしてもらえるとありがたい。

#### 岡 会長

先ほどより、これを誰に委ねるのかというところが、書いてないところもあるので、1ページ目のところ「自分の基本情報」、一番最初に自分の名前が書いてあって、大切な家族が書いてある。その中で誰に委ねるというところがあっても良い、かかりつけ医よりはそっちの方が大切なのではと思ってしまったが、どうか。かかりつけ医のところを右側に移動して2ページでもいい、自分の思うことを委ねる方の枠を作ってもいいと思うが、いかがか。

#### 事務局

先ほど福地委員から話があったが、項目によっては、この人というように変わってくる。また、エンディングノートは、1人だけで取り組むのではなくて、家族がいてもいなくても大切な方や医療職や専門職と一緒に取り組んでもらうことが肝要なので、ノートについて委ねる人を書いておくというよりは、内容について会話しながらわかってもらっていた方がより生き生きと使えると思っている。また、委ねる人を書いたとしても、その方に満がーのこともある。現状は委ねる人を記す欄は設けずにおこうと考えているが、いかがか。

#### 金原委員

施設とかそういうところが中心になると、施設を利用していない方は、ホームページから印刷するしかないか。

事務局

例えば、生涯学習交流館や公民館などに配架予定。また、相談先の地域包括支援センターや各相談窓口に置かせてもらう予定。

金原委員

1万冊で足りるのか。

平野委員

いずれは65歳の介護保険、先ほど現役世代というところもあったが、幅広く配布することも考えていきたいが、予算の兼ね合いもある。ただ興味がある方は、口伝いでホームページからダウンロードできたりするからよいと思う。

山田委員

先ほどの、エンディングノートを委ねたい方について、私は病院の立場なので、自宅や施設で行った場合はわからないが、家族がいる場合は、大体主導権を取る人が自然に出てくるため特に書いてなくてもおそらく大丈夫で、もしどなたも腰を引いた場合は、最後に市役所にお問い合わせすることになるが、委ねたい方が書いてなくとも大丈夫だと思う。

平野委員

実際、病院の先生方も、救急現場ではその現場に来た人か、駆けつけてくれた人と、直にそこで話し合う。ただ、心づもりとしてこういうものを残しておく、自分が書きながら、周りに知ってもらいたいことのためたたき台として思ってもらえればよい。法的なものでもないというのと一緒に、このようにして欲しくないを書いてあるからこれはしないというような法的なものでは決してなく、自分の頭の整理をするという認識でよい。

岡 会長

それでは平野委員よろしいか。

平野委員

今回は、5回の部会でずっとこのような話し合いをしてきました。何度話し合ってもこれで完成ということではなく、事務局でいろいろ整理しながらまとめ上げてもらった。多くの専門職、市民委員、弁護士の先生方に本当に様々な忌憚ない意見が出ながら、これがスタート台ということなのかもしれないが、スタートさせてもらえればと思っている。

岡 会長

それではこの項目に関しては、これで終了ということで他に話がある委員の方はいるか。

(全委員)  
意見なし

(閉会)

■会議録確認署名

「令和5年度 第3回静岡市在宅医療・介護連携協議会 会議録」について、  
内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 会長

氏名 (署名) 岡 慎一郎